

「これまで30社近く面接を受けてきましたが、なかなか採用されません。ある企業の面接では私の話には面接官が笑顔で何度もうなずき、比較的スムーズに展開したのに不採用。別の面接では、あっさり終わったのに通過しました。このため、なぜよかったのか、なぜ不採用だったのか全く分からず、頭は混乱するばかりです。面接官は私のどこを評価し、どんな点を見て採否を判断しているのでしょうか」—この時期、相談窓口でよく聞く質問だ。採用担当者は応募者のどこを評価しているのだろうか。面接でチェックする「ホンネ」を聞いた。

「面接官は私のどこを見ているのですか」

募集は対等、弊社をよく知ってもらおうための努力は惜しまない。

吹田市の東栄端子。大阪営業所の生田宏一取締役関西営業本部長は写真左から二番目は面接で重視する点をこう語る。同社は洗濯機や自動車を使う電子部品で、接続端子を扱う専門商社で今春、女性2名を営業ア



「うちの会社のどこに興味を持ったのか、どこが好んで志望したのかを素直に伝えてほしい。採用側と応募者との関係は対等。弊社をよく知ってもらおうための努力は惜しまない。」

素直さ 表現力を重視

システムに採用した。会社説明会では、仕事内容や給与・賞与額、休日の取得実績を詳細に話す。ポイントは「自信を持ち、自分の言葉で、自己表現できる人かどうかだ。」

「自分をさらけ出して欲しい」

とにかく素直に自分をさらけ出して欲しい」と強調する。意外性のある話が面接官の心をつかむこともある。前職の退職理由を尋ねたところ面接で泣き出した応募者がいた。

留学生「日本で就職を」



「卒業までに就職が決まらないうちに就活を始めるのがいい」というのが、6月27日に開かれた大阪府立大学等近畿ブロックの就職フェア2014。留学生相談コーナーには採用企業20社が参加。製造業やサービス業など、さまざまな業種が揃っていた。大阪府立大学出身の留学生は、中国出身の留学生と比べると、面接の準備ができていないという声も聞かれた。面接官は「絶対日本に就職したい」という意欲を見せたい。面接官は「絶対日本に就職したい」という意欲を見せたい。

「感情が高ぶり涙ぐんだ。面接の場で泣き出すとは、面接官の評価は割れたが、家族を思っていることと判断された。面接官の評価は割れたが、家族を思っていることと判断された。面接官の評価は割れたが、家族を思っていることと判断された。」

「事務職の面接では、本人のコミュニケーション能力を知るため友人との人間関係や協調性、明るさや元気さを見る」と生田本部長は語る。

学ハロ大阪新聞

発行所 厚生労働省 大阪労働局 大阪府新卒応援ハローワーク 〒530-0017 大阪府北区角田町18-47 阪急グランドビル18階 TEL 06-7709-9455 FAX 06-7709-9458 http://osaka-young.site.mhlw.go.jp

第9号

2014年7月18日

大阪府新卒応援ハローワーク

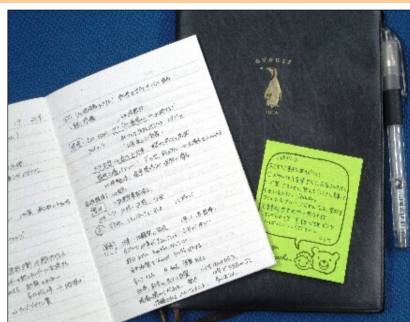


2 大阪わかハロ 個別支援力好評
4 ビル好き高じて建設会社の事務職に

新卒応援ハローワーク。だが、吹田の会社に行ってしまう対応した総務の女性が、後日、会社で行う説明会に参加するよう伝えた。実はこの女性、面接官の一人だった。「その時の彼女の詫げる姿勢と受け答えの印象が強に残っていた」ことも、採用の決め手になった。

ビル好き高じて建設会社事務職に

大阪市立大学文学部 4回生 女性



手帳にA6ノートを挟む。これなら忘れることなく、機動力に富む。

ビルディングが大好きで、よくぼーっと眺めていた。それが高じて大手建設会社の事務職に決まる。「自分で建物は作れないが、事務で貢献できるはず」。ビル好きも一つの縁と考え、企業に熱い思いを伝えた。物を作る仕事、形として残す仕事がしたいと駆け抜けた就活を振り返る。

わたしの就職活動日記 9

◆就活はいつから始めたか。昨年12月から学内説明会に参加した。高校は文芸部で小説を書き、大学は60年の歴史を持つ美術部青桃会の副部長。書くことへの興味から、大手インキメーカーや印刷会社を回った。

◆なぜ、建設会社に？
実は私、ビルディングを見るのが大好きなんです。特に壁面が絵ガラス張りや光を反射している姿に感動を覚えます。おかしいですかあ。友人の姉がA建設会社で事務をされていて、私、そのA社のビルが大好きで、A社のビル

なぜこの業界か 自分の言葉で伝え

ループワークに面接。本命だし、力も入った。だが「なぜ関西エリアで働きたいか」との質問に、上手く答えられず失敗した。採用されたい思いは人一倍強かっただけに、不採用通知は本当にショックで落ち込んだ。

◆何が原因だったのか。
準備不足につきる。志望動機やエリア採用について自分の言葉でしっかりと原稿を作っておくべきだった。思いが足

りなかつたんだなあ。これで手持ち企業はすべて消滅。先行きが見えず大きな不安が押し寄せる。自分は単にビルが好きで、建設業に向いていないんじゃないかと、切り返したのか。

◆そんな時、気持ちをどう早く寝た。夜、不安なことを考えると気持ちも暗くなる。だから就活中は午後10時半に就寝、午前5時起きを日課に睡眠はしっかりと取った。寝る

北の震災でも救助に当たった。道路や建物が倒壊し、市民を助けられなかった無念を語っていた。そんな父の姿に、私は建設業に進み、免震構造のビルやインフラの整備で貢献したいと考えるようになった。やはりこれが自分の生きる軸なんだと実感した瞬間だった。

◆そして再び、建設会社の説明会に足を運ぶことに。面接では、人と人をつなぐ仕事をしたと伝えた。もち

まり「深呼吸させてください」と叫んだ無作法な私のことを覚えていてくれた。会社の事業は護岸工事や防災など土木が中心だ。免震や液状化の防止に丸太の間伐材を打ち込み二酸化炭素を抑える工夫をするなど、他社とは違う姿勢に「この会社だ」と思った。

◆事務職の志望者は多いが採用は狭き門。関西エリアではわずか2人が採用され、そのうちの1人になった。難関の事務職に採用されるポイントは何だろう。

なぜこの業界か、ちゃんと自分の言葉で言えるかだと思ふ。私の場合はビルや震災復興の土木事業に興味があり、素直にその思いをぶつけた。面接が終わっても、質問にどう答えたかノートに取り、しっかりと振り返った。就活を終えて思うのは、縁の大切さだ。ビル好きが高じて建設業に興味を持ち、本当に行きたい企業と縁で結ばれた。最後はその縁を自分の手でつかむことだ、と知った。

大阪市のキンダ化学Ⅱ写真
下Ⅱは、さまざまな質問から本人の内面を掘り下げる。人事担当者は「例えば学業でどう頑張ったか。目標を持って課題をどう解決したか、自分にとっての達成感はどうなのかを語ってもらい」採否を判断する。

学業や部活、どう頑張ったか

だれにも負けないこと語って

面接、どうで評価



写真による印象とあいさつなど礼儀は特に重視。ただ面接では現場サイドが押ししてい

ても、役員は違う視点で評価する傾向も。一次・二次面接と最終面接の評価が分かれるのは、この点にあるようだ。

実は 面接官も悩んでいます

応募者から見ると、企業面接はブラックボックスだが、実は採用担当者も悩んでいる。その一例を紹介すると…▼面接の最後に質問は？と学生に尋ねたら「会社の雰囲気はどうですか」。それを知ってもらうために会社説明会を開いたのに…と担当者。ここは「普通ですよ」としておいた▼面接の場で給与や休日、残業時間など待遇についてズバズバ質問されるケースも。担当者は「会社資料にすべて記載済み。いきなりカネと休みの話だと気持ちがなえる。労働条件はもちろん大切なことだが、聞き方に工夫を」▼求人に応募したいとの連絡があったが、待てども待てども書類が来ない。面接も無断で欠席するケースも…。

「素直な性格で一生涯命、自分の思いを伝えようとする人に惹かれる」と話すのは大手百貨店の人事部長だ。アルバイトや部活動については「職種や長短にはこだわらない。そこで何を学んだかを語って欲しい。嘘はため。誇張してもすぐ分かる。趣味でも地域活動でも何でも良い。学生時代に何に打ち込んだかを評価している」という。会社に關する知識では「自分がこの会社で働くんだ」という視点でウチの魅力を話して欲しい」と期待する。以前、野球一筋に打ち込んだ

大阪新卒応援ハローワークのレギュラーマッチンググループ面接会(RMB)を通じて就職した若者たちは今、現場で奮闘する毎日だ。前号に続き彼らの仕事場を訪ねた。「先輩に同行し取材の手法を学んでいる。言葉の引き出し方や切り出し方、適切な言葉遣いなど、まだまだ勉強しないと」。25歳男性は、社内

RMBで就職した若者は今

報など企業広報媒体を企画・制作する仕事について1年。希望する書く仕事についてだが、山あり谷ありの毎日だ。社長ら関係者へのインタビューや業界の今を取材し、記事の校正作業にも忙しい。営業も経験したが「見積もりが遅れ、お客様に怒られた。取材先に対してもそうだが、どうも遠慮してしまうところ

がある。上司に早めに相談すべきだった」と振り返る。「今後は先を見据えて行動できるようスケジュール管理もきっちりしたい」。自ら物足りないと感じる積極性を高めたいと意欲を見せた。証券営業の23歳男性は「入社して感じたことは、声を大きく出せとか、きびきびとスピード感を出さないとか、学生時代が静なら、今は動的な感じだ。金融に関する勉強が多いと思っていたが、身体的な面から入っていくので驚きも感じている。金融機関は厳しいと覚悟しており、研修ではすべてを受け入れた」と決意を語る。

就活、休まず続けて

学生の皆さまは試験が終わり夏休みに入りますね。就職環境の改善で「売り手市場」と言われ、そのためか企業の人事担当者からは、学生は身構えてゆくりしていると声が聞かれます。しかしながら内定を得るためにはここからが正念場です。どうしても長期に渡る夏休みでだらけがちになりますが、早期に内定を勝ち取るためには、夏こそが正念場です。何でも相談してください。ジョブサポーターが全力で皆さまの就職活動をサポートします。

内定獲得まで一緒に伴走



3カ月就活プラン作成

大阪わかものハローワークは、担当者制による個別支援で就職活動中の若年層を積極的に支援している。仕事に関する詳しい解説をはじめ、給与や休日の取得実績、各種保険制度など求人票の記載情報を読み解きながら書類の添削や面接対策までしっかり指導。内定獲得へマンツーマンで伴走するのが特徴だ。5月から利用している24歳女性は「スタッフに励まされ、とても心強い。毎週ここで相談できるから就活も頑張ることができる」と内定獲得に意欲を見せている=写真。

利用の若者「励まされ、心強い」

個別支援は概ね週1回、40分の完全予約制。専属の担当スタッフが一人一人に合った就活プランを作成する。対象は概ね35歳未満の若年層で期間は3カ月。その間での内定獲得を目指す。6月末現在の登録者は632人。就職率は約80%。窓口では、スタッフが応募者の仕事観や希望職種を聞き取り、事務や営業など志望職種が決まっていれば、なぜこの仕事か、正社員希望か、いつまでに就職を決めたいかなどのスケジュールを聞く。合わせて、長所短所や仕事経験の有無など自己分析を行う。「やる気があれば、たとえ中途採用でも1カ月半ほどで決まるケースが多い」とスタッフ。とにかく履歴書を書き応募することが大切だという。「多くの若者は休日数や時間外手当などにこだわり結局応募しないケースが多い。われわれは、そんな消極的な若者の背中を押すことが使命。いい求人があれば、どんどん

応募を勧めている」と話す。最近、見受けられるのは、就職経験やスキルを欠く自分に自信がもてない、好きなことが見つけれないと話す若者だ。「まずはじっくり本人の話聞き、課題を整理する。進むべき方向性が見えてくると応募件数や面接回数も増え、良い循環になる」とスタッフ。「最初は不安な表情で、本人も何がしたいのかわからなかった。会うたびに愚痴を聞き、アドバイスした。不採用通知が来たら、一緒に落ち込まず、まずはじっくり本人の話聞き、課題を整理する。進むべき方向性が見えてくると応募件数や面接回数も増え、良い循環になる」とスタッフ。

意中の企業にアタック 就職フェア

太宰市議会議場就活フェア2014が6月27日、大阪・南港のインテックス大阪1号館で開かれたⅡ写真。オープニングセミナーとして日本一明るい経済新聞の竹原信夫編集長が「採用・不採用はここで決まる」人事のプロが明かす生情報」と題し講演した。また、竹原編集長が当日参加した企業9社の採用担当者に

み、慰めた」。そんな繰り返すから、やがて書類がコンスタントに通り出し面接へ進む。「書類の通過で少しずつだが、本人に自信が生まれ、内定を取るという目標ができる」と、一気に進み出す。やはり「通った」という自信の積み重ねが大きい」とスタッフは指摘する。「定期的にHWを訪れることがモチベーションの維持につながる。一人で悩まず、まずは窓口に来て相談して欲しい」。問い合わせは、大阪わかハロ、TEL06(7709)9470へ。

自衛隊の仕事 8月7日説明会

防衛省・自衛隊の仕事について理解を深めてもらうと、大阪新卒応援ハローワークで8月7日午後1時から、自衛隊の採用説明会がある。平成27年3月卒業予定者から、既卒は27歳未満なら、男女学歴を問わずだれでも参加OK。陸上・海上・航空自衛隊の仕事について、自衛隊大阪地方協力本部が映像などを使い説明する。自衛隊は23万人の組織で74の職種・職域がある。国土の防衛から災害救助、スーダンのPKO活動による国際貢献などスケールの大きな仕事がある。当日は、自衛隊任務の概要や幹部へのキャリアパス、給与や休日、退職金など福利厚生、採用試験などについて詳しく説明する。事前の申し込みは不要。